

学校番号	学校名	校長名
1	川崎市立川崎高等学校 全日制	高井 健次

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>「こころ豊かな人になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良さを伸ばし、将来の夢を見つめて、自分探しに取り組もう</li> <li>・自ら知識を求め、追究する過程を通じて、新たな課題に取り組もう</li> <li>・他を認め、思いやる心をつちかい、人類共通の課題に取り組もう</li> </ul>	<p>・学習指導・生活指導・進路指導の一体化による高い志の実現を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の特色ある教育活動の推進</li> <li>・安全・快適な教育環境の整備</li> <li>・適正かつ効率的な学校事務の遂行</li> <li>・教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの高い志を追い、その実現のためにむきむきな努力を継続できる生徒を育成し、基礎・基本の定着・ととに確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む。</li> <li>・「市川らしさ」=木目の細かい指導を生かし、生徒一人ひとりの良さを伸ばし、可能性を引き出すとともに自己存在感を与える教育活動を展開する。</li> </ul>

評価項目	具体的取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習習慣の確立と基礎・基本の徹底、生徒の学習ニーズに応じた発展的な学習のサポート等、主体的な学びを促す学習指導を展開する。</li> <li>・生徒の良さを伸ばし、潜在的な能力・可能性を積極的に引き出すための授業改善に取り組む。</li> <li>・学び方や学習方法の指導など学習ガイダンスを徹底し、家庭での学習習慣、自学自習スタイルを身に付けることを通じて、生徒の進路目標到達、自己実現を支援する。</li> <li>・基礎・基本の徹底、専門的知識・技能の習得や各種資格取得の指導とともに、個々の進路希望に対応した学習支援や進路情報を提供する。</li> <li>・個々の生徒の学力状況の把握に努め、状況に応じた主体的・対話的な深い学びを実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習の課題を整理し生徒の学力向上に向けた具体的な取組を提案する校内組織「学力向上プロジェクト委員会」を立ち上げた。</li> <li>・生活科学科、福祉科では、基礎的、基本的な学力の育成と共に、学科の特色を生かした資格や検定の取得を奨励することで、知識・技能をより高めることができた。</li> <li>・夏期講習会では、「基礎・基本の定着」・「発展的な学習」・「検定試験対策」の3つを中心に、多数の講義を開設した。</li> <li>・火曜日の8校時に「学習会」を設置し、この時間の部活動を行わず主体的な学習を促した。</li> <li>・学習支援ソフトClassiiを活用し、生徒の活動の記録を蓄積したり、学習の振り返りを行った。</li> <li>・「スタディサポート」や模擬試験を導入しているが、その結果を教員の授業改善につなげるとともに、生徒の動機づけになるよう取組の改善を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、中高一貫教育を導入して初の卒業生を輩出する年である。個々の生徒が進路希望の実現に向けて、6年間の学習の成果が発揮できるように、選択科目の授業内容を充実させるとともに、プレ模試の実施、生徒保護者を対象とする「ガイダンス」の回数を見直すなど、学習、進路指導の充実を図る。</li> <li>・専門科目においても、将来の社会的自立に向けて、専門家による体験授業、施設実習の充実など、地域人材の活用、資格取得に向けた実践的な授業の充実を図る。</li> <li>・夏期講習会については、多くの希望生徒が参加できるような体制作りを進める。</li> <li>・普通科個人端末に搭載されているベネッセの学習支援ソフト「Classi」活用を中心に、各学年におけるICT活用の体制を構築していく。</li> </ul>
2 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動の活性化、望ましい集団活動を通して、学校生活の充実、向上を図る指導を展開する。</li> <li>・人権尊重の精神を培うとともに、人間的な心の触れ合いや感動体験活動等を通じ、学ぶ者同士の連帯意識や所属意識を醸成する。</li> <li>・魅力ある体育・文化活動を通して、心身の調和のとれたたくましさ豊かな感性を育む。また、部活動を通して生徒の個性・特性を伸ばすとともに、切磋琢磨しあう人間関係を築く中で社会性、協調性を育む。</li> <li>○基本的な生活習慣、心身の健康の保持による生活規律を確立する。</li> <li>・日常的な指導や学校行事・ロングホームルーム・部活動等を通じ、生徒が適切な規範意識を持ち基本的な生活習慣・学習習慣を確立できるようにするとともに、幅広い社会性や友愛の精神と豊かな人間性を養う。</li> <li>・心身の健康管理や食育等を通して、学力の基礎となる健全な生活習慣の確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭は、中高の垣根を超えたブロック編成により、多くの生徒に充実感を与え、附属中学校との連帯感を高める行事となった。文化祭は、生徒の自主性や計画性の育成を生かした行事であった。体育祭、文化祭とも、一層生徒の主体性を生かした行事となるよう準備を進めていく。</li> <li>・部活動については、生徒の学習時間の確保、社会教育、家庭教育の機会や教員の余暇を、より増進していく必要がある。</li> <li>・教育活動全般に対する保護者からの意見や指摘に対し、誠実に対応した。</li> <li>・さまざまなニーズを持った生徒に対応するため、「支援検討委員会」を核とした、実効性のある支援に努めた。</li> <li>・「生徒情報交換会」を中心に、生徒の健康状況や活動状況など生徒情報の収集に努め、学年の枠を超えて具体的な支援を検討した。</li> <li>・生徒会を中心に、町内会と連携し、学校と地域の防災の一体化に取り組む、総務省「防災まちづくり大賞」を受賞した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事日程を見直し、授業時間を確保するとともに、生徒が主体的・効率的に取り組む活動を活性化する。</li> <li>・スポーツ長の方針に準拠し、部活動の活動時間及び日数の適正化を図る。</li> <li>・「生徒情報交換会」や「支援委員会」などの校内組織を効果的に運用し、生徒、学級の上位協を客観的に取り、青年期の不安や特性に応じた関わり、支援によって、問題行動の未然防止に努める。</li> </ul>
3 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的・組織的な進路指導を推進し、生徒一人ひとりの実態とニーズに応じた指導を展開する。</li> <li>・進路ガイダンス、進路講演会、キャンパス訪問、職業体験等の進路啓発行事を最優先で行う。</li> <li>・計画・実施し、一層の内容充実を図る。</li> <li>・進路指導部、学年の連携を密にし、「進路の手引き」の充実を図るとともに、生徒が主体的に進路選択できるように3年間を通じた計画的・効果的な進路指導の確立を図る。</li> <li>・教育活動全体を通して自分の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、高い志や夢を育むキャリア教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス・進路講演会・キャンパス訪問・職業体験・進路模試等の進路啓発行事を各学年の状況や意向を尊重し、</li> <li>・進路部「学力向上プロジェクト委員会」(校内委員会)との連携により、生徒の進路希望実現のための、3年刊の系統的な指導の流れが構築されつつある。</li> <li>・中高一貫教育により最後の学年における生徒の卒業に向け、個々の生徒の進路実現をめざし、3学年と進路部を中心に、丁寧な指導に当たった。</li> <li>・教育プランに基づき、将来の社会的自立に必要な力を育成するため、社会人材を生かした講演会や実習を積むなどキャリア教育の推進を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育による初めての卒業生の輩出に当たって、3年間の進路指導の流れをふりかえり、系統的な指導体制構築に向けた今後の検討に生かせるよう準備をする。</li> <li>・進路指導部と各学年、「学力向上プロジェクト委員会」の連携を密に行い、効率的、効果的な進路ガイダンス・進路講演会・キャンパス訪問・職業体験等の進路啓発行事の実施を目指す。</li> <li>・保護者、生徒への進路情報の配付、模試等のデータの蓄積と活用等、本校の教育環境を活かしICTを活用した効果的、効率的な進路指導の在り方を検討する。</li> <li>・教育プランに基づき、生徒の将来の社会的な自立に向けたキャリア教育の推進に努める。</li> </ul>
4 6年間の特色ある教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○川崎市教育委員会研究推進校研究課題「6年間の体系的・探求的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための研究」を推進する。</li> <li>・総合探究(総合的な学習の時間)の組織的・計画的な指導と外部機関との連携による探究的な活動の推進ならびに学習発表会に向けた全校的な取組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して4回の中高合同教科会を実施し、教科における6年間の系統的な教科指導の在り方の検討や研修の機会とした。</li> <li>・「総合的な学習の時間」において、中学からの探究的な学習をさらに発展させ、地域課題解決に向けた学習を進めた。</li> <li>・今年度は、市役所の業務改善イベント「チャレンジかわさきカイゼン発表会」に参加し、市長及び市役所の職員に向けて、代表生徒の発表とポスターセッションを行った。また、昨年同様総合教育センター及び教育委員指導課の指導主事を招き校内学習発表会を行い、生徒は外部人材からの指導講評の機会を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高の情報交換と共有を一層進め、6年間の充実した学習の在り方今後とも検討していく。</li> <li>・次年度は、中高一貫教育の完成年度でもあり、6年間の探究学習、ICT活用、英語国際理解学習といった、本校の特色ある教育活動のふりかえりに向けた準備を行う。</li> </ul>
5 教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の特色・魅力を具現化する教育課程を編成・実施する。</li> <li>・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、教育内容や指導方法等の充実・改善等の取組を進める。</li> <li>○各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、組織的・計画的な取組を進める。</li> <li>・附属中学校・全日制の学校行事、生徒会行事等の実効的な取組を工夫・検討し、活動内容の充実を図る。</li> <li>○清掃活動や校内美化活動により、自ら学習環境を整える態度、社会性や公共心を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理室との連携を常時図り、校舎内の施設の維持・美化に努め、不備等においては迅速な処理を行った。</li> <li>・日常の授業、行事、部活動などにおける各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、総務部、学務部を中心に、調整方法を工夫し、組織的・計画的な取組を進めた。</li> <li>・高校全日制・定時制・附属中学校・南部地域教育センター合同の全館防災訓練を実施し、災害時における生徒の防災意識を高めた。</li> <li>・非常時に備えて校内の備蓄品の整備を行った。</li> <li>・特別清掃、消火設備点検に加え、人工芝グラウンドゴムテップ補てん整備を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理室と連携し、生徒の安全を最優先した施設点検及び管理に努める。</li> <li>・高校全日制、定時制、附属中学校が、授業、行事、部活動で、限られた学校施設を効率的に使えるよう、各務分掌や部顧問が種々越え連携を深め、連絡調整に努める。</li> </ul>
6 学校事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行う。</li> <li>・学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有を図りながら、学校財務の効率的な運用を図る。</li> <li>○校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。</li> <li>○教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌や教科代表による予算委員会を組織して計画的な予算編成に取組み、管理職と予算担当者で実務的な取りまとめを行った。</li> <li>・夏休みを中心に、全職員で校舎内及び体育館の備品の管理状況の調査を実施した。</li> <li>・学校事務については適正な事務処理が執行された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行うため、学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有を図りながら、学校財務の効率的な運用を図る。</li> <li>・校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。</li> <li>・教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。</li> <li>・学校収金の適切な管理運用のための校内の相互チェックなど、管理体制を強化する。</li> </ul>
7 学校組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等の公開授業や研修会などを通して、指導力を高める授業改善の取組を推進する。</li> <li>・各教科等において、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために有効な手立てとなる、言語活動の充実を図る取組を進める。</li> <li>・各教科・科目の特性に応じた適切な学習形態のあり方を研究、実践する。</li> <li>○校務分掌としての業務分担の確立や伝達・継承の円滑化を図る取組を進める。</li> <li>○校内コミュニケーションを通して相互協力や連携に基づく協働体制の確立を図る。</li> <li>・全職員が一致協力して計画的に継続的な教育活動を展開し、円滑な校務運営にあたりるとともに、各学年、各分掌との連携・協調を通じて、教育効果の向上と教育条件の整備に努める。</li> <li>○学校情報を積極的に発信する開かれた学校づくりを推進し、学校全体の教育力を高める。</li> <li>・生徒、保護者、地域から信頼される学校となるよう、教職員の資質向上を図り、生徒が生き生きと学べる教育を推進する。</li> <li>・教育公務員としてその職責の重さを自覚し、言動が生徒の範となるように、不断の自己研鑽及び研修に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本教育工学研究協議会全国大会 川崎大会の公開授業に合わせ、大学教授の指導のもと、各教科の特質に応じた効果的、効率的な学習指導の研究、研修を行った。</li> <li>・教員の指導力向上及び校内運営の課題解消に向け、10月より1月1日の校内研修を試行した。</li> <li>・定期的に開催する校務運営会議を通じ、各学年、各分掌、専門学科等の取組みや動向を確認、精査し学校全体の運営や調整を図った。</li> <li>・校務支援システムの「回覧板」機能を活用し、校務に関する情報伝達を効率化することで、朝の職員打ち合わせの体制を省力化した。</li> <li>・生徒会発行の新聞や発行物、学年・保健室発行の便り、PTA・学校による発行物、ホームページの活用などを通じて、生徒、保護者、地域に必要とされる情報の発信を行った。</li> <li>・教育公務員として日常からの適切な言動を不断に再確認しながら、外部の事例等に基づき必要な研修を行った。</li> <li>・本校の中高一貫教育の完成年度に向けた、新たな校務分掌構成による校内体制がスタートし、充実した教育活動の推進に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科の生徒及び中高一貫教育第1期生の生徒の学習ニーズと進路希望を的確にとらえ、特色ある教育活動を進めるとともに、各務分掌が課題改善に向けた、迅速かつ計画的、継続的な学校改革が推進されるよう校務分掌構成の見直しを行う。</li> <li>・効率的な業務運営を図るため、校内委員会の一部を廃止、業務移管し、校務分掌の業務として位置づける。</li> <li>・地域、保護者から信頼される学校をめざし、ICTを活用したり、授業公開等における情報発信に努め、開かれた学校づくりを一層推進する。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康についてきちんと管理が行われ、丁寧な指導をしている。</li> <li>・海外修学旅行、海外研修などにより、生徒の世界観が広がっている。</li> <li>・地域との連携を深めた教育活動をさらに推進してほしい。</li> <li>・自転車通学者については、特に雨天時の安全運転に気を付けてほしい。</li> <li>・卒業式の様子から、学校教育活動がますます良くなっていると感じる。校歌の歌声もさらに大きく聞かえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、次年度の中高一貫教育1期生の卒業に向け、学力向上に向けた取組や授業や行事の在り方を見直すなど、学校にとって様々な取組を断る。今年度の取組を次年度に生かせるよう継続した取り組みが必要である。</li> <li>・同時に、本校の専門学科への周囲からの高い期待と生徒の希望に報いる教育活動を今後も進めていく。</li> <li>・普通科「総合的な学習の時間」や、専門科「課題研究」等、探究学習を充実させ、生徒の主体的な学習をさらに発展させる。</li> <li>・今年度受賞した総務省「防災まちづくり大賞」など、次年度も地域と連携した教育活動を推進していく。</li> <li>・学校教育目標の達成、具現化を図り、生徒が「自己肯定感」をもてる教育活動をより一層推進していく。</li> </ul>